

今後の国土数値情報の整備 のあり方に関する検討会 を終えるにあたって

瀬戸 寿一

駒澤大学文学部地理学科・准教授

東京大学CSIS・特任准教授

本検討会で具体的に議論できなかったこと／今後に向けた提案 (第1回～第6回の委員論点等も踏まえて)

1

【ニーズの把握】

- ①ニーズ把握の手法 (cf. 学会&コミュニティにおけるセッション企画と記事発信)
- ②ニーズ調査に対するインセンティブ設計 (cf. ユーザー活用例のプロモーション)

2

【ユーザーの拡大】

- ①データ活用に寄与頂いた方々へのエンゲージメント (cf. 学会&コミュニティでのアワード贈呈・データ伝道師制度の応用など)

3

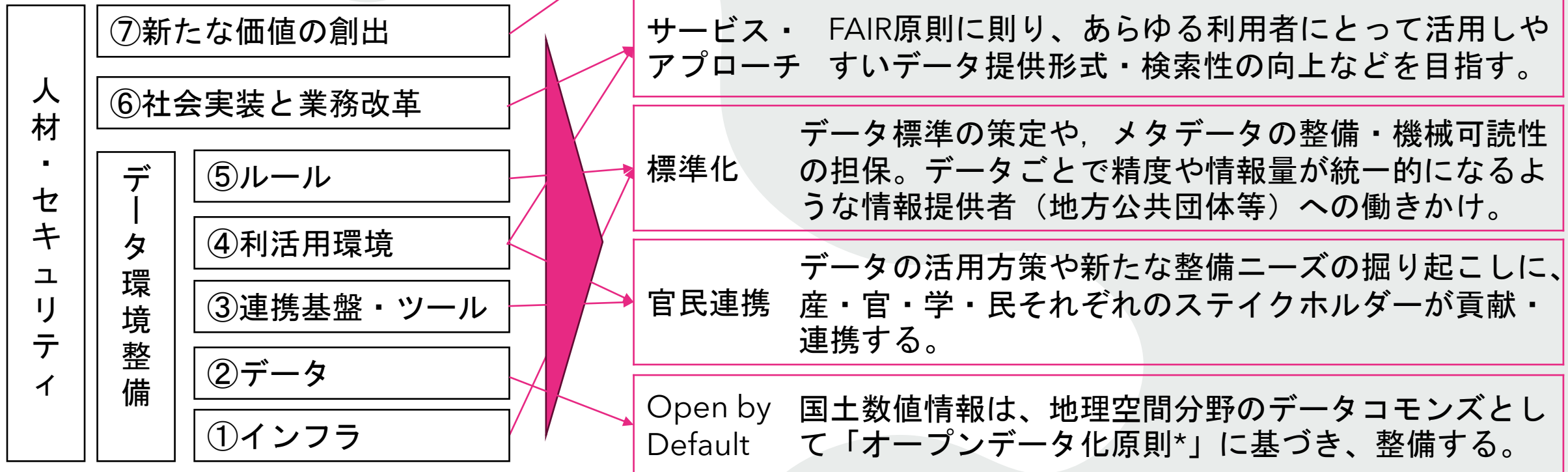
【効率的な整備手法・提供手法】

- ①データ整備時点での効率化・システム化 (cf. データ提供自治体や作業機関からのデータアップロードCMS)
- ②データの「空白」に対する対応・支援の具体的方法 (cf. データ整備に関する通達、既存の届出制度のDX化)

・ 社会的ニーズと政策課題を踏まえたデータ整備の意思決定過程の透明化
(cf. 国土数値情報アドバイザリーボード)

国土数値情報整備における基本原則を作るとすれば (あくまで勝手な私案)

包括的データ戦略のアーキテクチャ



※オープンデータ化原則：①営利、非営利目的を問わず二次利用可能、②機械判読に適応、③無償で利用可能